

## 『大学・学校づくり研究』創刊にあたって

ここに、名城大学大学院大学・学校づくり研究科の研究紀要を上梓できることを、研究科のスタッフ・学生とともに心から喜びたいと思います。研究ミッションを「大学・学校づくりの知恵を学際的科学研究として発展させる」ことに定めてきました。そのため、専門職教育の体系性と実用性を保証する科学的な研究と開発を、単独の学問領域や教育領域にこだわることなく探究する活動として展開を図ることが必要であると自覚してきました。まだ、その途上にあるわけですが、拙いながらもこの紀要は、そうした研究ミッションを果たしていく最初の道標です。

早いもので研究科設置から3年が過ぎようとしています。この間、研究科として3度の入学式と1度の修了式を経てきました。本研究科の特徴は、初等中等学校の問題と高等教育の問題を繋いで捉えるというコンセプトにあります。そのような他にない研究科・専攻であるだけに、授業にしても研究指導にしても学生とともに「つくる」おもしろさと責任の重みをかみしめながら、少しずつ体制を整えここまできたしだいです。まさに、研究科づくりの3年でした。

ただ、それゆえに活動範囲は限られており、思うように進まないもどかしさや予期しない事態と向き合いながら、できるときにできることから取り組んできました。その一つの取り組み実績が、今年度、ほぼ隔月で定例的に開催してきました研究会です。

この研究会を通じて大学・学校づくりの実践知と研究知が交流し、学びのコミュニティを創りあげていくことをねらいにしています。そして、さらにそれぞれの知を練り鍛えて広く社会に発信し、大学・学校の持続的な革新を支えていきたいと願っています。

昨年ようやく本研究科のウェブページを公開できましたが、そのウェブページと並んでこの紀要は、その研究会活動と連動した発信ツールです。

幸い、昨年度に修了した学生は、それぞれの職場で学びを生かして職責を果たしていますし、在学している学生も、職場との両立に苦しみながらも研究科のある13号館3階のフロアに足繁く通ってきてくれています。こうした学生の期待にいつそう応えていくには、さらなるステップを踏み出していくことが必要であることを痛感しています。そのためにも、この紀要に載せた研究成果について多くの人々からご高評いただき、忌憚のないご意見・ご批評を賜れば幸いです。

世界的に経済不況が深刻化していく昨今、大学・学校を取り巻く内外環境はますます厳しい様相を示しています。本研究科は、こうした環境を克服しうる教育専門職の育成と研究開発に精進し、これからも研究ミッションを果たすべく次の道標に向けて鋭意、活動を展開して参る所存です。なにとぞ、よろしくご支援、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

2009年1月26日

編集委員長

木 岡 一 明